

今、好悪兩地區に於ける體性、年齢別體重の比較を表示するときは、次表の通りである。

□好悪兩地區に於ける體性別體重比較（單位・kg）

年 齡	男		差	女		差
	良好地	不良地		良好地	不良地	
一 歳	10,595	9,677	918	10,595	10,595	0
一 歳 六 月	11,757	10,561	1,196	11,757	10,802	955
一 歳 九 月	13,100	11,551	1,549	13,100	11,949	1,151
二 歳	13,925	12,551	1,374	13,925	12,833	1,092
二 歳 六 月	15,353	13,754	1,599	15,353	13,955	1,398
二 歳 九 月	16,550	15,000	1,550	16,550	15,000	1,550
三 歳	18,133	16,833	1,300	18,133	16,833	1,300
三 歳 六 月	19,500	18,133	1,367	19,500	18,133	1,367
三 歳 九 月	20,875	19,500	1,375	20,875	19,500	1,375
四 歳	24,125	23,625	500	24,125	23,625	500

二 内地との比較

内地農村の成績と比較するときは、各歳を擧げて本島が低劣であつて、前項好悪兩地區に於ける場合と同軌を呈してゐて、本年齡期に於ける横徑的發育に在りては、本島は迥に内地を凌駕してゐるが、既に十五歳未満に於て低劣なる結果の影響である。而して男女俱に十七歳に於て其の差異の頂點に達し、男は一貫目、女は六百kgの著差となつた、爾後の各歳は兩者の距離近接して

二十四歳末には男は五百kg、女は僅かに七十kgを示すに過ぎぬまでに槽ぎ付けた。

その詳細を表示するときは、次表の如くである。

□本島と内地との體重比較（單位・kg）

年 齡	男			女		
	本島	内地	本島の減差	本島	内地	本島の減差
一 歳	10,595	11,811	1,216	10,595	11,811	1,216
一 歳 六 月	11,757	13,551	1,794	11,757	13,551	1,794
一 歳 九 月	13,100	15,000	1,900	13,100	15,000	1,900
二 歳	13,925	16,833	2,908	13,925	16,833	2,908
二 歳 六 月	15,353	18,754	3,401	15,353	18,754	3,401
二 歳 九 月	16,550	20,000	3,450	16,550	20,000	3,450
三 歳	18,133	21,833	3,700	18,133	21,833	3,700
三 歳 六 月	19,500	23,754	4,254	19,500	23,754	4,254
三 歳 九 月	20,875	25,000	4,125	20,875	25,000	4,125
四 歳	24,125	27,625	3,500	24,125	27,625	3,500

二 身 長

イ 全島的觀察

横徑的發育は比較的高老者に在りても現出するものであるから、つまり年齢との關係は甚だ微弱である。而るに縦徑的發育増加は丁年前後に於て停頓固定するから、従つて身長の成育極限線

は本年齡期に在るのである。

島民身長生育の完成年齡を觀るに、男女とも二十二歳にして、男は五尺四寸、女は五尺丁度である。而して男は二十二歳に至る迄各年遞増しつつあるが、女は二十歳に四尺九寸九分に達し、次年二十一歳には一分減少を呈し、二十二歳に至りて更に二分の増加となつて五尺に上つたのである。

本年齡期の女は毎歳男より矮小にして、而かも其の差異は追歲較大し十五歳の一分に初まり、十七歳には二寸臺に昇り、十八歳乃至二十一歳は三寸臺の殖差となり、二十二歳乃至二十四歳は孰れも四寸の差異となつて來る。

次に各年の發育狀態を觀るに、男は十九歳の一分より毎歳約三四分の等差をもつて生育してゐるが、女は十五歳の一分より二十歳には一分の發育に激減してゐる。而して男女ともに二十歳の上昇終期よりは兩性等しく毎歳一分減をもつて二十四歳に迫んでゐる。

今、男女別に依る身長と、男女の身長差及び男女年々の絶對増加量とを表示すると、次表の如くである。

□體性別身長の發育狀態 (單位・分)

種 別	一五歳		一六歳		一七歳		一八歳		一九歳		二〇歳		二一歳		二二歳		二三歳		二四歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
男	四六	四五	五〇	四九	五八	五七	五三	五二	五三	五三	五三	五三	五三	五三	五〇	五〇	四九	四九	四六	四六
女	四五	四五	四九	四八	四九	四八	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六

年々の發育値	男 女 の 差	
	男	女
一五歳	二	〇
一六歳	一八	六
一七歳	二四	三
一八歳	三	二
一九歳	三	二
二〇歳	三	一
二一歳	三	一
二二歳	三	一
二三歳	三	一
二四歳	三	一

備考 (一)は前年齢より低減したるもの。

□ 地方別觀察

地理的影響に依る身長發育狀態を觀察すると、北部は最優秀、中部之に亞ぎ、南部の可ならざるは、既に前年齢に於けると同軌である。即ち全島平均位と對比して見ると。

□州別平均身長と全島平均身長との比較 (十年齡中)

州	男			女		
	平均以上	平均と同位	平均以下	平均以上	平均と同位	平均以下
臺北州	七	一	三	六	一	三
新竹州	一〇	一	一	五	三	二
臺中州	一〇	一	一	七	二	一
臺南州	一	一	一	二	二	六
高雄州	一	一	一〇	二	三	五

男は新竹、臺中の兩州は孰れも全島平均位以上にありて優秀、亞で臺北州は平均以上のもの七年齡あり、高雄州は各歳平均位以下である。又女に在りても大體男の傾向と同軌である。即ち平均以下にある年齢の多寡に依つて優劣を定むれば、臺中、新竹、臺北、高雄、臺南の各州順位とな

る。

次に身長の極限年齢を見るに、男に在りては平均と同じく二十二歳とするは臺北州を除く他の四州孰れも同様なれども、新竹州は十九歳に於て既に二十二歳と同位を示してゐる。又臺中州は二十一歳に於て最長限となつてゐる。臺北州は新竹州と同じく十九歳の五尺四寸をもつて最長身期となつてゐる。女は平均と同様二十二歳を最長身期とするは臺北、臺中、高雄の三州で、新竹州は早熟にて既に十九歳に於て最長身期に達し、臺南州は二十三歳の五尺一分を最長としてゐる。之を要するに北部地方は早熟であるが、南部特に臺南州は身長増加率が最も遅々として緩慢である。

北、南部間に於ける身長の發育状態に如上の差異あるは、或は同じく健康地と稱するも地方に依りて、其の度合に差等あることも其の一因として看過することが能きぬ。従て發育經過に就ては大體同位の道程を辿るものとしても、或る地方に於ては不健康者、即ち帶病者又は羸弱者を比較的多数に包含する結果、年少期には其の反映として良好ならざる影響著しきも、年齢の長するに従つて虚弱者の夭折等自然淘汰に俟つて青年期頃よりは比較的健康體のみが聚積することゝなり、反つて良好なる平均率が現出せらるゝものとも観測することが出来る。

今、本年齡期に於ける身長の絶対發育を地方別に表示して見ると。

□十五歳乃至二十四歳の絶対發育値 (單位・分)

州	男				女			
	十四歳末の身長	十五—二十四歳の最長年齢	絶対發育値	十四歳末の身長	十五—二十四歳の最長年齢	絶対發育値		
全島	四七	三	五〇	四五	三	五〇		
臺北州	四三	三	四八	四二	三	四八		
新竹州	四三	三	四八	四二	三	四八		
臺中州	四三	三	四八	四二	三	四八		
臺南州	四三	三	四八	四二	三	四八		
高雄州	四三	三	四八	四二	三	四八		

上表の如く、本年齡期中の身長發育は男女俱に臺南州を優秀とし、亞で高雄州が良好であつて、北中部は甚しく劣小を呈してゐる、而るに各年齢としての對立に相反する状態にあるは、幼少年期の遅々たる伸長度が本年齡期に入りても未だ償了せざる結果に外ならない。尙ほ反面から觀察すると南部臺灣は長期に亙つて生長發達状態を持續するものとも謂へる。其の詳細を表章するときは、次表の如くである。

□十六歳乃至二十四歳の平均身長 (單位・分)

地方及性	一五歳		一六歳		一七歳		一八歳		一九歳		二〇歳		二一歳		二二歳		二三歳		二四歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全島	四六	四五	四七	四六	四八	四七	四九	四八	五〇	四九	五一	五〇	五二	五一	五三	五二	五四	五三	五五	五四
臺北	四三	四二	四四	四三	四五	四四	四六	四五	四七	四六	四八	四七	四九	四八	五〇	四九	五一	五〇	五二	五一

地方及性	女				男			
	高	南	中	新	高	南	中	新
一五歳	四八五	四八五	四八八	四八九	四九五	四九四	四九四	五〇一
一六歳	四八二	四八八	四九三	四九二	四九八	四九八	四九八	五〇〇
一七歳	四八一	四九一	四九七	四九四	四九八	四九八	四九八	五〇二
一八歳	四八四	四八六	四九三	四九三	四九八	四九八	四九八	五〇二
一九歳	四八五	四八六	四九三	四九三	四九八	四九八	四九八	五〇二
二〇歳	四八六	四八八	四九四	四九四	四九八	四九八	四九八	五〇三
二一歳	四八九	四八九	四九六	四九六	四九八	四九八	四九八	五〇三
二二歳	四九三	四九六	四九九	四九九	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇三
二三歳	四九八	四九八	五〇〇	五〇〇	五〇二	五〇二	五〇二	五〇三
二四歳	四九八	四九八	五〇〇	五〇〇	五〇三	五〇三	五〇三	五〇三

ハ 好悪兩地區に於ける比較

衛生状態の良好地居住者を、其の不良地のそれと比較するに於ては、後者の優良なるべき理なきは必然的であるが、その不良なる程度を量的に闡明し、其の因果關係を探究し、不良の因由を解消せしむるに善處するは、本調査の主旨である。今十五歳乃至二十四歳の十年間に於ける好悪兩地域住民の身長を比較して見ると、十五歳に在りては男は一八分、女は八分不良地が低劣を示してゐる。十六歳以上は追歳その差減を縮小しつつ、兩者間相近接して來るが、尙二十四歳に於て男は三分女は二分だけ不良地が負數を貽すことになる。

元來、衛生状態の不良地としたる標準は、瘧に施行したる衛生基本調査を本幹とし、其の參酌

事項として死亡超過、マラリアの瀰蔓、特殊疾病の分布等を考慮したのである。而して實地調査の結果は從來不健康の因由なりと信せられたるものと、相異なる眞因を捕捉することが出來たものが多々あつたのである。之を要するに不良地と目せられたる地方は一般に四圍の環境が非衛生的であり、衛生思潮にも甚しく低級、加之ならず醫療機關の缺陷等にして、將來刷新すべき事象多く既に改善施設に著手したるもの尠しとせざる狀況である。

前述のやうに兩地域に於ける身長に就て之を考察するとき、不良地に在りては一般に庶民病、其の他疾病高率の影響が體格に及ぼす自然現象の重大なるを鑒みると同時に、此等非衛生的部落に對應する刷新施設の急務なるを痛感せざるべからず。

次に兩地域に於ける、身長比較を表示すべし。

□好悪兩地區に於ける體性別身長比較（單位・分）

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
五歳	四九六	四九六	四八七	四八七
六歳	四九六	四九六	四八七	四八七
七歳	四九六	四九六	四八七	四八七
八歳	四九六	四九六	四八七	四八七
九歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一〇歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一一歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一二歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一三歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一四歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一五歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一六歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一七歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一八歳	四九六	四九六	四八七	四八七
一九歳	四九六	四九六	四八七	四八七
二〇歳	四九六	四九六	四八七	四八七
二一歳	四九六	四九六	四八七	四八七
二二歳	四九六	四九六	四八七	四八七
二三歳	四九六	四九六	四八七	四八七
二四歳	四九六	四九六	四八七	四八七

二 内地との比較

本島人の體格關係中、身長を内地農村民のそれと比較するに、十五歳未満に在りては大體本島人の優秀なるを見たりしが、十五歳以上に至りても絶對的に本島人が優秀を極めてゐる。今島民の優秀なる度合を見るに年齢の長するに伴つて、其の差長を殖加してゐる。即ち男の十五、六歳には島民僅かに一分の長たれども、十七歳には五分の差となり、十九歳には一寸の較差に伸び、二十二歳には差異の絶頂となつて二寸を示してゐる。女の方面を窺ふに十五歳には既に著しく島女發育して八分の長あり、亞で追歲順潮なる發育を遂げ二十歳に至りて本島人は四尺九寸九分を示したるに比し内地人は一寸七分の短小にて四尺八寸二分を示してゐる。而して身長に限は島民、内地俱に二十二歳にして我の五尺丁度に對し、内地は四尺八寸四分を示し其の差減は一寸六分である。尙二十三、四歳の兩年の差異は孰れも二十歳の最高距離と同じく一寸七分に達してゐる。

尙ほ本年齡期に於ける絶對發育値を見ると男女に依りて差等がある。先づ男の状態を見るに本島人は六寸三分の伸長に對し内地人は四寸六分にして其の比は七對五である、而るに島女は二寸五分の伸長なるに比し内地女は一寸三分の低率であるから、この比率は約二對一を示してゐるに過ぎぬ。但し本比較に關しては民族的差異を考慮すべきことを忘れてはならぬ。

次に内臺人身長比較を表示するときは、次表の如くである。

□本島と内地との身長比較(單位・分)

年	齡	男			女		
		本島	内地	較差	本島	内地	較差
一	五	四六	四三	三	四二	四〇	二
一	六	四七	四四	三	四三	四一	二
一	七	四八	四五	三	四四	四二	二
一	八	四九	四六	三	四五	四三	二
二	九	五〇	四七	三	四六	四四	二
二	〇	五一	四八	三	四七	四五	二
二	一	五二	四九	三	四八	四六	二
二	二	五三	五〇	三	四九	四七	二
二	三	五四	五一	三	五〇	四八	二
二	四	五五	五二	三	五一	四九	二
二	五	五六	五三	三	五二	五〇	二
二	六	五七	五四	三	五三	五一	二
二	七	五八	五五	三	五四	五二	二
二	八	五九	五六	三	五五	五三	二
二	九	六〇	五七	三	五六	五四	二
二	一〇	六一	五八	三	五七	五五	二
二	一一	六二	五九	三	五八	五六	二
二	一二	六三	六〇	三	五九	五七	二
二	一三	六四	六一	三	六〇	五八	二
二	一四	六五	六二	三	六一	五九	二
二	一五	六六	六三	三	六二	六〇	二
二	一六	六七	六四	三	六三	六一	二
二	一七	六八	六五	三	六四	六二	二
二	一八	六九	六六	三	六五	六三	二
二	一九	七〇	六七	三	六六	六四	二
二	二〇	七一	六八	三	六七	六五	二
二	二一	七二	六九	三	六八	六六	二
二	二二	七三	七〇	三	六九	六七	二
二	二三	七四	七一	三	七〇	六八	二
二	二四	七五	七二	三	七一	六九	二
二	二五	七六	七三	三	七二	七〇	二
二	二六	七七	七四	三	七三	七一	二
二	二七	七八	七五	三	七四	七二	二
二	二八	七九	七六	三	七五	七三	二
二	二九	八〇	七七	三	七六	七四	二
二	三〇	八一	七八	三	七七	七五	二

三 胸圍

イ 全島的觀察

胸圍は體重増加の歸嚮と同軌を呈し、年齢の長するに従つて擴大を辿るものである。而して男は二十三歳、女は二十歳を劃期とし、以上は固定又は一張一弛を示してゐる。就中胸圍の著明なる發達は男女俱に十五歳にして、其の増圍率も又同じく一寸二分を示してゐる。十六歳以上は年々増加の割合を遞下し男は二十三歳の二尺七寸五分を頂點とする、女は二十歳の二尺六寸一分に至り一轉機を萌し、二十一歳は前年より減少し、亞で二十二歳は二十歳と同位に昇り、二十三歳は前年と同じく居居りの状態を續け、二十四歳に及び一分の増加を認めてゐる。

更に男女の差異を觀るに體重の場合と同じく十五、六歳の兩年は女を優秀としてゐるが、十七歳以上は再び男の優位に復し、二十三歳には一寸四分の著差を認むるに至つた、爾來逐年男の優勢に歸してゐる。

如上の比較を表示するときは、次表の通りである。

□體性別胸圍比較(單位:分)

性	男女の差	
	男	女
一五歳	250	240
一六歳	248	235
一七歳	244	231
一八歳	242	227
一九歳	240	225
二〇歳	238	223
二一歳	236	221
二二歳	234	219
二三歳	232	217
二四歳	230	215

備考 (十)は女の優れたるを示し。(一)は前年より減少したるを示す。

□ 地方別觀察

胸圍對地理的關係を觀察するに、體量の歸趨と同軌を保ち、全島平均位以上にあるは新竹州を尤となし、臺北州之に亞いで男は二十二歳は平均と同位、女は二十一歳が平均より僅かに一分の減少である。第三位は臺中州の占むる所で女性は總て平均位を抜いてゐるが、男性にありては二十一歳は平均と同位、二十歳及び二十二歳乃至二十四歳は一分乃至三分の間において減少を呈してゐる。臺南、高雄の兩州は孰れも男女兩性に互つて全島平均に達してゐるもの認めず。

叙上の如く胸圍の廣狹は北中部優良なれども、南部二州に在りては全島平均位に達するものなき實狀を呈露してゐるが、本年齡期の絕對發育値を精査するときは體重、身長と同じく南部特に臺南州最も優勢にして北部、中部は寧ろ低劣を示してゐるのである。即ち本年齡期に於ける絕對發育値を算出して見ると、男に在りては臺南州の五三分を最とし、臺北州の五二分之に亞ぎ、臺中州は僅かに三九分に過ぎざる状態である。又女にありては男と同様臺南州の三五分を筆頭に、高雄の三二分次位にあり、各歳としての胸圍の廣濶なる新竹州は本年齡間になりては二六分の低少にして全島中の最下位である。之を要するに胸圍は新竹、臺中各州に在りては幼少年期に著しき發達を遂ぐると雖も青年期には遅々緩慢たる發育を辿るに過ぎず、而るに南部二州に在りては之に反するを知るべきである。

□十五歳乃至二十四歳間の絕對胸圍發育値(單位:分)

地 方	男			女		
	胸圍發育値	指 數	順 位	胸圍發育値	指 數	順 位
全 島	230	100	1	215	100	1
北 州	225	95	2	210	95	2
新 州	220	90	3	205	90	3
臺 中 州	215	85	4	200	85	4
臺 南 州	210	80	5	195	80	5
高 雄 州	205	75	6	190	75	6

又各歳別胸圍を地方及び體性別に表示すると、次表の如くである。

□十五歳乃至二十四歳の平均胸圍(單位:分)

地方及性	女					男				
	高	蓬	新	蓬	全	高	蓬	新	蓬	全
雄南中竹北島	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一五歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一六歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一七歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一八歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
一九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二〇歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二一歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二二歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二三歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三

ハ 好悪兩地區に於ける比較

衛生状態の好悪兩地域に依る差異は、不良地の好良地に否かざるは言を俟たざる所であるが、胸圍の比較を見るに不良地の著しく狭小なるに一顧を拂はなければならぬ。身長に在りては好悪兩地の較差比較的微弱を呈してゐたが、胸圍にありては體重と同軌の著差が認められる。即ち男の胸圍は十五歳乃至十八歳間は一一分内外の大差あるに對し、身長は十五歳に一八分、十六歳一三分、十七、八歳には九分内外の差異にて身長對胸圍間に殆ど近遜數を現はし、胸圍は身長の約半とすべき建前より推測すると、その較差の豫想外に大なるを痛感すべきである。然れども不良地

居住者は矮軀なれば従て胸圍も亦狭小なりと謂ふ見方もあるが、衛生刷新上忽諸に附すべからざる問題である。

次に兩地區に於ける胸圍の比較を表彰すると、次表の如くである。

□好悪兩地に於ける體性別胸圍比較(單位:分)

年 齡	男				女			
	良好地	不良地	較 差	較 差	良好地	不良地	較 差	較 差
五 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
六 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
七 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
八 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
九 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
一〇 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
一 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
二 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
三 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二
四 歳	二四	二二	二	二	二二	二〇	二	二

ニ 内地との比較

本島民胸圍を内地のそれと比較するに、本年齡十歳間兩性を通じ一歳として島民の勝れたるもの非らず、特に本年齡間の身長關係を見るに各歳、各性悉く島民の優秀なるに反し身長は前述のやうに一歳として島民の優良なるものなきは、これ全く島民の狭長にして細長體型であることが明かる。

前項に於ける島内衛生状態の良否地區居住者の胸圍比較にて見たると同一の傾向あり。男は十五歳乃至二十一歳間は總て一〇分以上の本島方狭小を示し、二十二歳乃至二十四歳は孰れも八分の差減を呈してゐる。島民女は五分より七分の間にありて狭小を示して居る。

□本島と内地との胸圍比較(單位:分)

年 齡	男		女	
	本島	内地	本島	内地
一 歳	100	100	95	95
二 歳	100	100	95	95
三 歳	100	100	95	95
四 歳	100	100	95	95
五 歳	100	100	95	95
六 歳	100	100	95	95
七 歳	100	100	95	95
八 歳	100	100	95	95
九 歳	100	100	95	95
一〇 歳	100	100	95	95
一一 歳	100	100	95	95
一二 歳	100	100	95	95
一三 歳	100	100	95	95
一四 歳	100	100	95	95
一五 歳	100	100	95	95
一六 歳	100	100	95	95
一七 歳	100	100	95	95
一八 歳	100	100	95	95
一九 歳	100	100	95	95
二〇 歳	100	100	95	95
二一 歳	100	100	95	95
二二 歳	100	100	95	95
二三 歳	100	100	95	95
二四 歳	100	100	95	95
二五 歳	100	100	95	95
二六 歳	100	100	95	95
二七 歳	100	100	95	95
二八 歳	100	100	95	95
二九 歳	100	100	95	95
三〇 歳	100	100	95	95
三一 歳	100	100	95	95
三二 歳	100	100	95	95
三三 歳	100	100	95	95
三四 歳	100	100	95	95
三五 歳	100	100	95	95
三六 歳	100	100	95	95
三七 歳	100	100	95	95
三八 歳	100	100	95	95
三九 歳	100	100	95	95
四〇 歳	100	100	95	95
四一 歳	100	100	95	95
四二 歳	100	100	95	95
四三 歳	100	100	95	95
四四 歳	100	100	95	95
四五 歳	100	100	95	95
四六 歳	100	100	95	95
四七 歳	100	100	95	95
四八 歳	100	100	95	95
四九 歳	100	100	95	95
五〇 歳	100	100	95	95
五五 歳	100	100	95	95
六十 歳	100	100	95	95
六五 歳	100	100	95	95
七十 歳	100	100	95	95
七五 歳	100	100	95	95
八十 歳	100	100	95	95
八五 歳	100	100	95	95
九十 歳	100	100	95	95

第四 二十五歳以上の體格

二十五歳以上の成人にありては、各歳の發育關係概ね微弱であるから、之を五歳宛に括約して検討することとした。尙高老者は検査人員の過少なるがため時に偏差の甚しいものあるを慮り、詳述を避けたものがある。

一體 重

イ 全島的觀察

二十五歳以上の體重を一瞥すると、大體年齢の長するに伴つて遞減してゐる。先づ男の状態を見るに二十五歳乃至四十九歳の二十五年間は十四貫臺を保ち、就中三十五歳乃至三十九歳の五歳級に於て體重最高潮を示し十四貫四百二匁である。五十歳乃至八十四歳の三十五年間は十三貫臺に下り、八十五歳以上は更に低下して十二貫臺である。

女の状態を見ると、二十五歳乃至五十四歳の三十年は十二貫臺にて、就中二十五歳乃至二十九歳級の一二、八六〇匁は高潮時を告げてゐる、而し全年齡を通じたる最高體重は二十三歳の一二、八四匁である。十一貫臺は五十五歳乃至七十四歳間と、九十歳以上九十四歳級で、其の他の各年齢級は十貫臺に降つてゐる。

男女體重の差異を比較するに女の差減は約一、六〇〇匁内外であつて、六十五歳を經過すると其の差減大となり二貫以上に達する。

更に二十五歳乃至二十九歳級の體重を指數一〇〇とするときは男女間の權衡は殆ど平準を保つてゐるが、六十五歳以上に至れば女體著しく激減を來たすを見るべし。其の詳細なる男女體重の比較を表示するときは、次表の如くである。

□體性別體重比較(單位:匁)

年 齡	男		女		男女の差
	體 重	年々の状態 指 數	體 重	年々の状態 指 數	
二五—二九歳	140.0	(-)	136.0	(-)(-)	14.0
三〇—三四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
三五—三九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
四〇—四四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
四五—四九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
五〇—五四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
五五—五九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
六〇—六四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
六五—六九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
七〇—七四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
七五—七九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
八〇—八四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
八五—八九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
九〇—九四歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0
九五—九九歳	140.0	(-)	137.0	(-)	13.0

備考 (一)は前年齢より低減したるを示す。

地方別觀察

環境衛生が人體の發育に影響する所甚大なることは屢々縷述した通りである。緯度の關係から觀察するも嘉義地方は北緯二十三度半に當るから嘉義以南は熱帶地に屬し、其の以北は暖帶圈内

の亞熱帶地となる譯で、氣象より見て本島の南北は地域の狭小なる割合には自然的に大差異を呈してゐるのであるから、從て温度、湿度にあつても高下を示し生物特に人體に影響するところ大なるは自ら明かである。故に保健工作に就ては地理的差異を考慮して、之に即したる施設を取ることを忘れてはならぬ。今、二十五歳以上の體重を地方別に觀察すると最重、最輕間には可なりの逕庭が認められるのである。即ち

二十五歳以上者體重の兩極

年 齡	男		女	
	最 重	最 低	最 重	最 低
二五—二九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
三〇—三四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
三五—三九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
四〇—四四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
四五—四九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
五〇—五四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
五五—五九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
六〇—六四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
六五—六九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
七〇—七四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
七五—七九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
八〇—八四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
八五—八九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
九〇—九四歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)
九五—九九歳	140.0(新竹州)	136.0(臺南州)	135.5(新竹州)	131.0(臺南州)

上表に依れば最重、最低の差大なるは、男に在りては八〇—八四歳の一、八〇〇を最とし、七

〇一七四歳級の二、二〇〇夕、二五―二九歳級の九五〇夕等之に亞ぐ、女に在りては四五―四九歳級の二、三〇〇夕を首とし、六五―六九歳級及び五〇―五四歳級の各一、〇〇〇夕之に亞いでゐる。之に反して體量の較差小なるは男に在りては七五―七九歳級の五〇〇夕を主とし、三〇―三四歳級及び三五―三九歳級の各六〇〇夕之に屬してゐる、又女に在りては二五―二九歳級の七〇〇夕を最とし、五五―五九歳級(七二五夕)、三五―三九歳級(七五七夕)及び三〇―三四歳級(七六一夕)等順次に亞いでゐる。

而して年齢に依る體重の最高地方を觀るに、二五歳乃至八五歳の六十年を五歳階級に分ちたる十二階級中、男に在りては新竹州最も優良にして十階級を占むる所となり、其の他の二階級は臺北州に歸し總て高老級である。女も男の傾向と同軌にして新竹州を最重とするもの九階級、其の他の二階級は臺中州、一階級は臺北州に歸屬してゐる。更に最低地方を見るに男は臺南州の七階級を最とし、以下高雄州の三階級臺中州の二階級である。女に在りては之れ又男の歸向と同じく臺南州は九階級の多數を占め、殘る三階級は總て高雄州に屬してゐる。

之を要するに體重は二十五歳以下に於けると同じく新竹、臺北兩州の北部地方は優秀を示し、南部地方の臺南、高雄兩州は孰れも低劣である。

更に全島平均と比較して其の優劣を檢討せむとす、先づ平均との優否を表示して見ると、

臺北州	平均以上	平均以下	平均以上	平均以下
	一二	一		

新竹州	一一	一	一二	一
臺中州	一	一一	八	四
臺南州	一	一一	一	一二
高雄州	三	九	一	一二

右年齢階級は體重の最高、最低對比の場合と同じく八十四歳に之を止めた、之は老年級高老級に在りては遂かに減少して生存者が絶無なる地域の存するからである。即ち臺北、臺中兩州は八十九歳まで、新竹州は男は八十九歳を最高老とすれども、女には九十五歳以上級あり、臺南州は男は上記の如く八十九歳に止まるも女は九十歳以上九十四歳級を缺き九十五歳以上級あり、高雄州は男は八十五歳乃至八十九歳級を缺き、九十歳乃至九十四歳級あり、又女は一般傾向と同軌を呈し八十九歳に終つてゐる等の關係からである。

右表の成績に依ると男は臺北州が優秀であつて各歳平均以下の年齢級を認めない。次は高雄州にして平均位以上は三、以下は九年齡級である。臺中、臺南の兩州は孰れも同位で平均位にあるは前者は四五―四九歳級、後者は七五―七九歳級の各一歳級のみで、殘餘の十一年齡階級は平均位以下の不良である。女は新竹州を最良とし總て平均線上に突出してゐる、次で臺北、臺中兩州が良好を呈し、臺南、高雄の兩州は各歳階級平均位に上つてゐるものがない。終りに各年齢間に於ける體量の動向を表示すると、次の如くである。

□各年齢間體重の動向状態(單位:夕)

年 齡	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
二五—二九歲	151.4	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(平均體重)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
三〇—三四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
三五—三九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
四〇—四四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
四五—四九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
五〇—五四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
五五—五九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
六〇—六四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
六五—六九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
七〇—七四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
七五—七九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
八〇—八四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
八五—八九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
九〇—九四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
(前年介に比し増減、以下同じ)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

備考 (一)は前年齢期より減少したるを示す。

上表を通覽するに各州に於ける年齢對體重の關係は、全島平均と全く同型なるを認められる。而して定則通り年齢の長するに従つて減少するは同軌である。而して二十五歳乃至三十九歳の十五年間は一進一退の傾向がある、就中著明なるは三十歳乃至三十四歳級男に於て前年齢級より臺中州の二八〇及及び臺南、臺北兩州の二四〇及を増加したると、又女に在りては三十五歳乃至三十九歳級に於て臺中州の四〇〇及、臺北州の一七〇及の増加等である。之を要するに體重と年齢

關係は四十歳未満に在りては起伏常なきも、四十歳に至れば逐年減少を呈するものである。次に二十五歳以上の各州別に依る兩性平均體重を表示すべし。

□二十五歳以上の平均體重(單位・及)

年 齡	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
二五—二九歲	151.4	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
三〇—三四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
三五—三九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
四〇—四四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
四五—四九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
五〇—五四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
五五—五九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
六〇—六四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
六五—六九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
七〇—七四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
七五—七九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
八〇—八四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
八五—八九歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5
九〇—九四歲	151.5	150.1	150.0	148.9	148.5	146.8	145.5	145.4	145.0	144.5

ハ 好惡兩地區に於ける比較

健康區と非健康區に於ける成人の體重を比較して見ると、各性各歳孰れも健康區の優秀なるを示したるは當然過ぎる程當然の歸結である。唯高老若級に男女各一組の健康地低劣を現出したが、

之は検査人員の餘りに過少なる結果で統計上の變の現象に外ならず。

而して本調査に於ける不健康地區は大體に村落であつて、健康地は概ね市街地の占むる所であるから、本成績は一面からは都鄙別對照として見る事が妥當かも知れない。從來農村は慢然と理窟なしに唯健康地なりと唱へられ來て、其の結果村落衛生は閑却に付せられ、都市衛生の進展とは比較にならぬ距離が生じたのである。農村のやうに四圍が非衛生的事情に置かれ、加之ならず保健觀念甚だ低位にして一般に不潔を極め、一面經濟關係から十分の醫療を攝る資力に乏しく、或は醫療機關の設備なき部落すら散見する状態を呈してゐる。而かも農民の通弊として偏食に陥ること、過勞に失する缺點等あるは全く榮養保健上熟慮すべき緊要事である。

前述の如く高老者は少數であるから、之を除外して二十五歳より五十年間、即ち七十四歳級迄の體重經過を觀るに各年遞減すること前項健康區の状態と全く同軌である。即ち健康區、非健康區孰れも齡を加ふるに伴つて減少するは比較表の示す所にして、兩地區に於ける生活現象を如實に示すものと首肯せらる。かつ健康地、不健康地の常型にして兩地ともに體重關係の同一なるを知了することが出来る、その漸減状態を指數にて示すときは、

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
二五—二九	九六	九八	一〇〇	一〇〇
三〇—三四	九五	九八	九九	一〇〇
三五—三九	九三	九五	九九	一〇〇
四〇—四四	九二	九五	九九	一〇〇
四五—四九	九一	九三	九七	九八

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
五〇—五四	九六	九八	九五	九四
五五—五九	九五	九八	九三	九一
六〇—六四	九三	九五	九〇	九一
六五—六九	九二	九五	八七	八九
七〇—七四	九一	九三	八七	八八

備考 體重の最高年齢級を一〇〇とす。

右表を仔細に觀察すると良好地男の漸減状態は三十歳乃至三十九歳の十年間最高潮期を呈し、四十歳以上は各年齢階級の上るに従つて秩序ある遞減指數を示してゐるが、不良地男の状況は三五—三九歳級を頂點一〇〇とし、五歳を上る四〇—四四歳級は九八(指數)に漸減し其の後五十九歳迄即ち四十歳より二十年間は依然として同位を保持してゐて、何等増減なき現狀維持を繼續し、六十歳以上に至りても同様にして好良地の如き序次ある遞減指數を示してゐない。女の漸減指數の状態は男の如く截然ならざれども、其の歸嚮は概ね男の狀態と同揆である。次に健康地、非健康地に於ける比較を示すときは左表の通りである。

□好悪兩地區に於ける體性別體重比較(單位・kg)

年 齡	男				女			
	良好地	不良地	較	差	良好地	不良地	較	差
二五—二九歳	1505	1506	1	1	1485	1485	0	0
三〇—三四歳	1500	1503	3	3	1480	1480	0	0
三五—三九歳	1491	1493	2	2	1465	1465	0	0
四〇—四四歳	1482	1484	2	2	1455	1455	0	0
四五—四九歳	1473	1475	2	2	1445	1445	0	0

年 齡	男		差	女		差
	良好地	不良地		良好地	不良地	
五〇—五四	136.8	135.8	1.0	121.0	120.0	1.0
四五—四九	135.8	134.8	1.0	120.0	119.0	1.0
四〇—四四	134.8	133.8	1.0	119.0	118.0	1.0
三五—三九	133.8	132.8	1.0	118.0	117.0	1.0
三〇—三四	132.8	131.8	1.0	117.0	116.0	1.0
二五—二九	131.8	130.8	1.0	116.0	115.0	1.0
二〇—二四	130.8	129.8	1.0	115.0	114.0	1.0
一五—一九	129.8	128.8	1.0	114.0	113.0	1.0
一〇—一四	128.8	127.8	1.0	113.0	112.0	1.0
五—九	127.8	126.8	1.0	112.0	111.0	1.0
備考	(一)は不良地の勝れたるものである。			(一)		

二 内地との比較

二十五歳以上の島民體量を内地農村民と比較すると、男は各歳を通じ島民の劣小なるを見られたるも女は概して島民優良なり。即ち島民男は七十五歳以上の高年級に三階級の優秀を見られたるも、之は調査人員の過少なるがための影響して、必しも信憑し得ざるものである。女は三十歳乃至三十四歳の五年間に限り島民劣小なる外其の他の各歳級は島民適かに内地農村民を凌駕してゐる、但し九十五歳以上級は本島低劣なるも之は男の事情と同じく過少なる調査人員の影響であらう而して生産年齢(六十歳迄)間の内臺兩種族の比較中本島人の差減を觀るに男に在りては三十五歳乃至三十九歳の一六六を最小限とし、四十歳乃至四十四歳の三九七を最大限としてゐる。内地各歳級の體重を指數一〇〇とするときは本島は九七乃至九九の間である。又女に在りては三十歳乃

至三十四歳級の島民僅かに四一の差減を見るの外、其の他の各歳級は男に反して三十五歳乃至三十九歳級の四一より五十五歳乃至五十九歳級の二七七の間において總て優秀である、即ち内地女の各歳級を指數一〇〇とするときは島女は一〇〇乃至一〇二の間に於て勝れてゐる。之を要するに島男の差減は比較的大なるが、島女の差増は割合に低小である。次に本島内地の各歳級別を表章して對照に資せむとするものである。

□本島と内地との體重比較(單位:匁)

年 齡	男		差	女		差
	本島	内地		本島	内地	
二五—二九	136.8	135.8	1.0	121.0	120.0	1.0
二〇—二四	135.8	134.8	1.0	120.0	119.0	1.0
一五—一九	134.8	133.8	1.0	119.0	118.0	1.0
一〇—一四	133.8	132.8	1.0	118.0	117.0	1.0
五—九	132.8	131.8	1.0	117.0	116.0	1.0
備考	(一)は本島の低劣なるを示す。			(一)		

二 身長

島内庶民病の分布蔓延の最たるものは寄生蟲、トラホームの兩疾患である、特に寄生蟲の侵襲は幼兒期に在りて既に蝕まれるも、民衆は衛生觀念の淺薄、迷信、醫療の資力乏しきに基因し從來全く等閑視し去れり、由來身體の矮小なるは寄生蟲に因由するにさへ謂はるゝ所である。本調査の成績に徴し、目下庶民病、防止の對策としてトラホームの治療と、寄生蟲卵の驅除に先鞭を付け鋭意之が救療に専念してゐることは、個人の健康上、延ては民族の隆昌上大に賀すべきことである。

今、成人の身長状態に關し全島綜合的歸嚮、地理的影響、保健狀況の好惡兩地域の對照及び内地農民との優劣比較に分ち略述を試みむとす。

イ 全島の觀察

二十五歳以上の成人身長を觀るに男は五尺三寸臺、女は四尺九寸臺を示し、年々の隔差は僅微にして三分を超ゆるものなく、而して増加するは稀にして多くは減少を告げてゐる、特に高年級に上るに従つて其の減率を大ならしむるは體軀の萎靡に基因するからである。

男女に依る身長の差異を觀るに各年齢級間四寸内外を示し、就中著差あるは三〇歳乃至三四歳級にして四寸三分に昇つてゐる、八十歳以上級には大差あれども、之は検査人員の僅少なる影響に外ならない。

次に性別身長各年齢級及び年々の増減状態並に指數を表示するときは、次表の如くである。

□ 體性別身長比較(單位・分)

年 齡	男			女			男女の差
	身長	年々の状態	指數	身長	年々の状態	指數	
二五—二九歳	五尺六寸		100	四尺九寸		100	七寸
三〇—三四歳	五尺五寸	(-)(-)	101	四尺八寸	(-)	101	七寸
三五—三九歳	五尺四寸	(-)(-)	102	四尺七寸		102	七寸
四〇—四四歳	五尺三寸	(-)(-)	103	四尺六寸		103	七寸
四五—四九歳	五尺二寸	(-)(-)	104	四尺五寸		104	七寸
五〇—五四歳	五尺一寸	(-)(-)	105	四尺四寸		105	七寸
五五—五九歳	五尺	(-)(-)	106	四尺三寸		106	七寸
六〇—六四歳	四尺九寸	(-)(-)	107	四尺二寸		107	七寸
六五—六九歳	四尺八寸	(-)(-)	108	四尺一寸		108	七寸
七〇—七四歳	四尺七寸	(-)	109	四尺		109	七寸
七五—七九歳	四尺六寸	(-)	110	三尺九寸		110	七寸
八〇—八四歳	四尺五寸	(-)	111	三尺八寸		111	七寸
八五—八九歳	四尺四寸	(-)	112	三尺七寸		112	七寸
九〇—九四歳	四尺三寸	(-)	113	三尺六寸		113	七寸
九五—九九歳	四尺二寸	(-)	114	三尺五寸		114	七寸

備考 (一)は前年齢級より低小なるを示す。

□ 地方別觀察

身長最大の年齢期を全島的に觀察するときは、既述の如く男女孰れも二十二歳(男五尺四寸、女

二十五歳乃至七十四歳迄を五歳階級として之を十年齡階段に區分して男女の身長を比照して見ると、臺中州最も著差を認め六五—六九歳級を除けば他の九年齡階段は總て男は四寸以上女よりも高し。次に新竹州は四寸以上の差異あるもの七階級あり。而して臺北、臺南、高雄の三州は孰れも四寸以上の較差あるものは三年齡級に過ぎぬ。

□體性別身長差

年 齡	最高			最低		
	臺北州	新竹州	臺中州	臺北州	新竹州	臺中州
六五—六九歳	六〇—六四歳	六五—六九歳	六五—六九歳	六〇—六四歳	六五—六九歳	六五—六九歳
三〇—三四歳	四七	四九	四七	三四	三四	三四
四〇—四四歳	四五	四五	四五	四五	四五	四五
六五—六九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳
七〇—七四歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳
七〇—七四歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳
七〇—七四歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳	四五—四九歳

二十五歳以上の身長を地方別に表章するときには、次表の如くである。

□二十五歳以上の平均身長(單位分)

年 齡	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
二五—二九歳	五三	五三	五三	五三	五三	四九	四九	四九	四九	四九
三〇—三四歳	五三	五三	五三	五三	五三	四九	四九	四九	四九	四九
三五—三九歳	五三	五三	五三	五三	五三	四九	四九	四九	四九	四九

年 齡	好 惡 兩 地 區 に 於 ける 比 較				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
四〇—四四歳	五三	五三	五三	五三	五三
四五—四九歳	五三	五三	五三	五三	五三
五〇—五四歳	五三	五三	五三	五三	五三
五五—五九歳	五三	五三	五三	五三	五三
六〇—六四歳	五三	五三	五三	五三	五三
六五—六九歳	五三	五三	五三	五三	五三
七〇—七四歳	五三	五三	五三	五三	五三
七五—七九歳	五三	五三	五三	五三	五三
八〇—八四歳	五三	五三	五三	五三	五三
八五—八九歳	五三	五三	五三	五三	五三
九〇—九四歳	五三	五三	五三	五三	五三

ハ 好 惡 兩 地 區 に 於 ける 比 較

衛生状態の良、不良兩地域に於ける身長を對照すると、體重の場合と勇振たるものあり、即ち男は殆ど各年齡階級一分乃至七分の差異をもつて優秀なり。然るに女は比較的影響する處微弱にして却つて不良地に長軀者あるを見たり、即ち良好地の勝れたるは二十五歳乃至三十四歳の十年と五十歳乃至五十四歳級に止まり、三十五歳乃至四十四歳間の十年間は彼我同率を保ち、その他の各歳級は一分乃至三分の間に在りて良好地の矮少なるを見た。其の詳細を表示して、略説を省略すべし。

□好悪兩地區に於ける體性別身長比較(單位・分)

年 齡	男		較 差	女		較 差
	良好地	不良地		良好地	不良地	
二五—二九歲	五八	五七	一	四九	四九	—
三〇—三四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
三五—三九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
四〇—四四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
四五—四九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
五〇—五四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
五五—五九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
六〇—六四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
六五—六九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
七〇—七四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
七五—七九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
八〇—八四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
八五—八九歲	五九	五八	一	四九	四九	—
九〇—九四歲	五九	五八	一	四九	四九	—
九五—	五九	五八	一	四九	四九	—

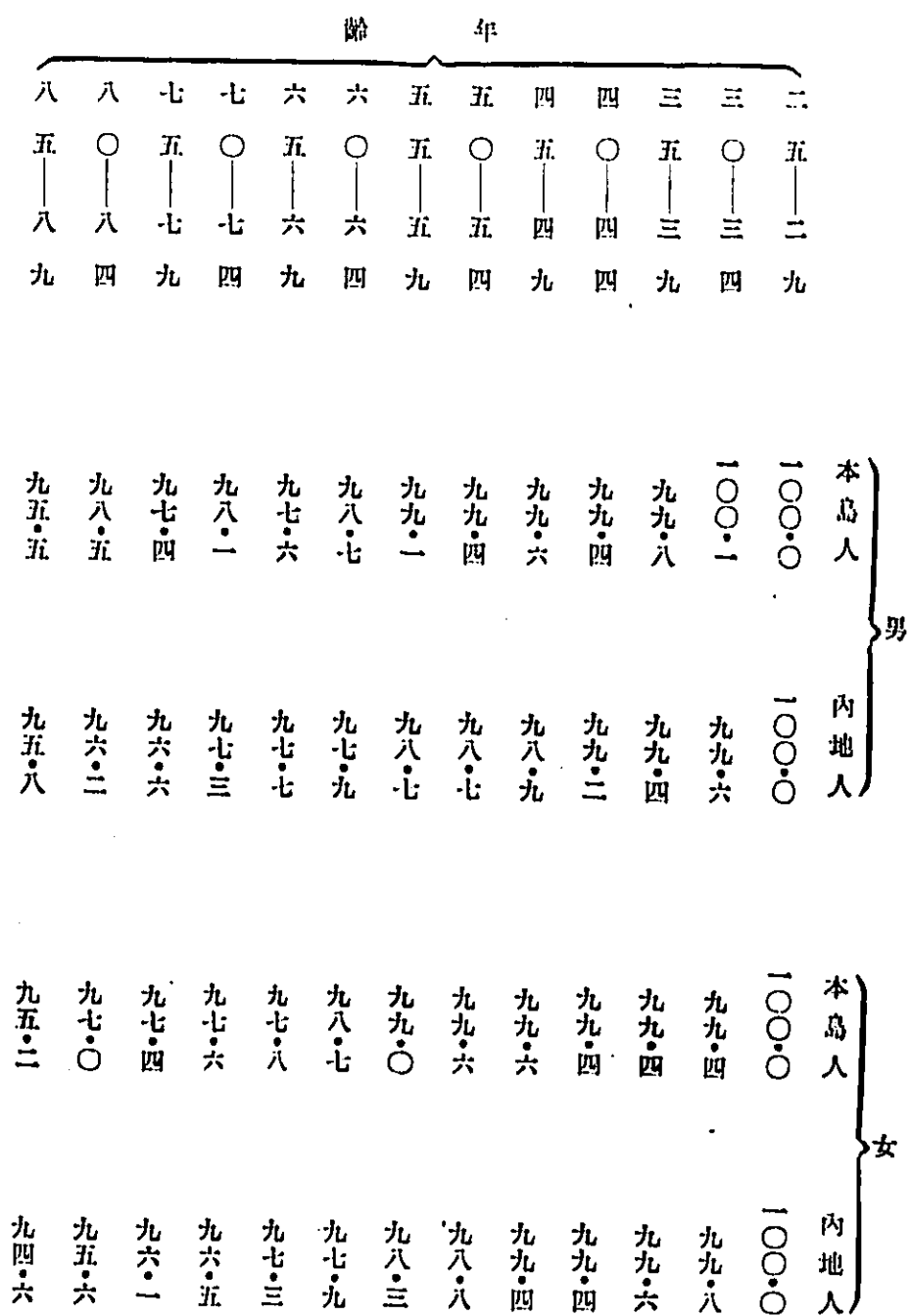
二 内地との比較

内地農村民と比照すると男は各歳一寸六分乃至二寸の著差をもつて島民遙かに高し。女は更に高く四十九歳迄は男と同じく一寸六分乃至一寸九分の間にあれども五十歳を過くれば各歳二寸以上の著差をもつて島女孰れも高し。之を要するに成人に於ける島民の身長は男に在りては五尺三寸臺、女は四尺九寸臺なりと謂ふべく、而して内地農村民の身長は男女ともに島民よりは二寸短少にして男は五尺一寸、女は四尺七寸である。

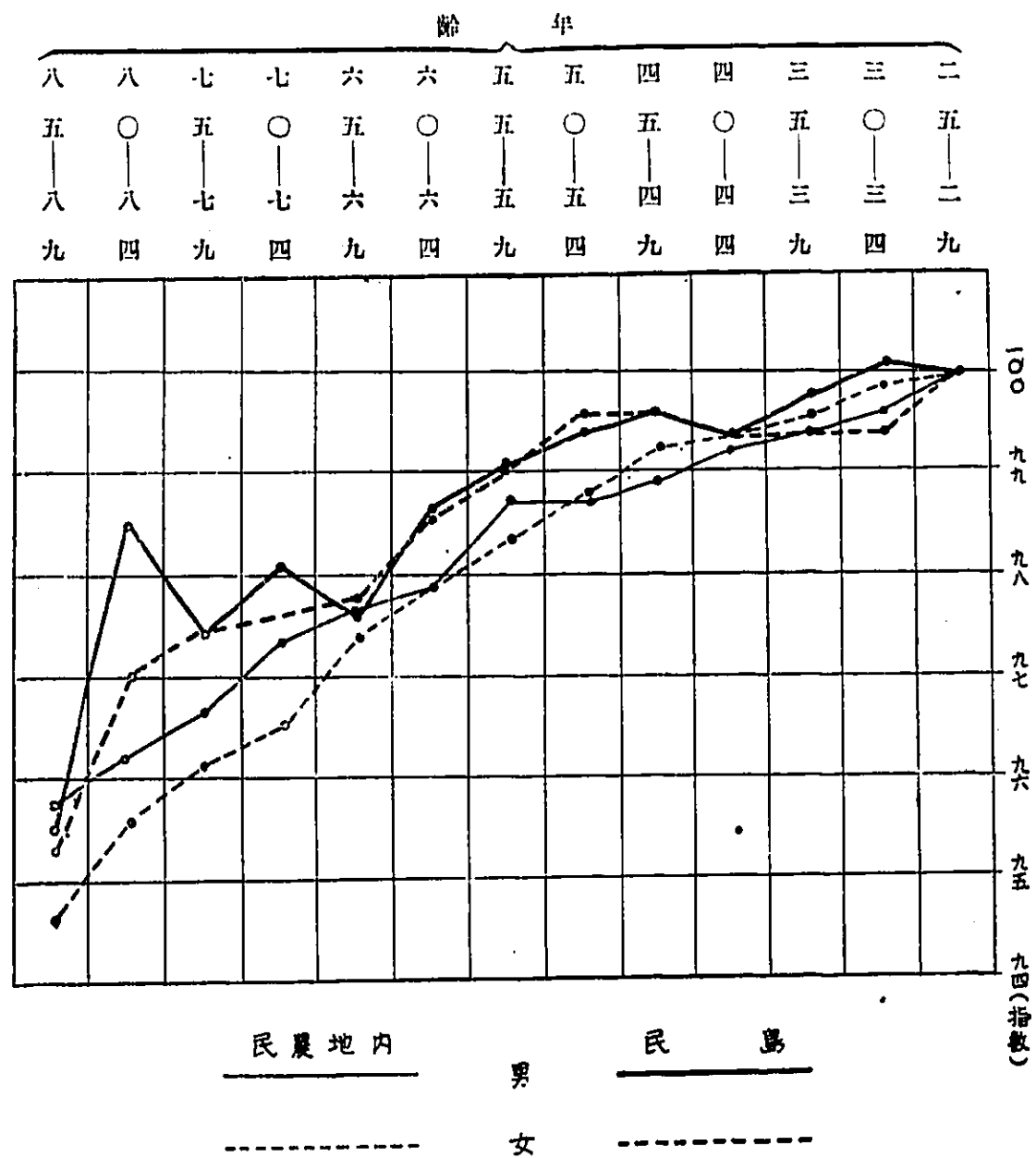
特に成人初期より高年齢に至る身長の下降的狀態を観るに内臺人間に著差あることである。即ち二十五歳乃至二十九歳間の平均身長を一〇〇として爾後五歳階級毎の平均身長を測定して見ると、本島人は男女俱に四十歳乃至四十四歳間に九九四に降下し同位となれども、其の曲線は男は女に比して高度を示してゐる、然るに内地人は女に在りては本年齡期に同位を保ちたるも、男は九九二にして島民と全く相反して其の間の曲線は女を高度としてゐる。五十歳乃至五十四歳級に至れば島女九九六を示し最高位下降率の最微弱なるを示すに上り、亞で島女、内女、内男の順位をなして、内地人男の身長下降率が顯著である。六十歳乃至六十四歳級に達せば本島人男下降最も微弱を呈し、次に島女之に亞ぎ、内地人は男女とも同位となつて九七九の比率を示し、爾後の五歳階級は各歳總て女減退率の大なるを見た。更に十年を経過したる七十歳乃至七十四歳級の連鎖道程を見るに内女著しく下降したる儘、依然として島男を最少微弱として順位に異變なく、島男の指數は九八二に對し最大減退の内女は九六五を呈し、其の較差一六を示してゐる。

内臺人の身長下降状態に關する指數と、其の圖示とを表示するときは次の通りである。

□ 年齢と身長下降 (指數)



□ 年齢と身長下降 (圖示)



島民と内地農民との各歳級別身長の比較表を掲記するときは、次表の如くである。

□本島と内地との身長比較(單位・分)

年 齡	男				女			
	本島	内地	較差	本島	内地	較差	差	
二五—二九 歲	五八	五九	一	四九	四八	一	一	
三〇—三四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
三五—三九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
四〇—四四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
四五—四九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
五〇—五四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
五五—五九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
六〇—六四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
六五—六九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
七〇—七四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
七五—七九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
八〇—八四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
八五—八九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
九〇—九四 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	
九五—九九 歲	五九	五九	〇	四九	四八	一	一	

三 胸 圍
イ 全島的觀察

本島人の胸圍極限線を見るに、男に在りては二十五歳乃至三十九歳の十五年間に於ける平均胸

圍二尺七寸七分である、又女に在りては三十五歳乃至三十九歳級の二尺六寸三分が最大を示してゐる。而して各年齢の長するに伴ふ差減は甚だ僅微にして一、二分に過ぎない。故に二十五歳乃至二十九歳級を指數一〇〇とするときは、男女孰れも四十九歳に至る二十五年間は總て同率一〇〇を示して居る、特に女は二十四歳に於て既に二十五歳乃至三十四歳級と同じく二尺六寸二分に達してゐる。

胸圍の下行線は男に在りては八分、女に在りては一、四分、五分に萎微し、男は總て二尺七寸毫、女は大體二尺五、六寸毫を示してゐる。

男女に依る胸圍差は二十五歳乃至四十九歳間は一、四分、五分にして、五十歳乃至五十四歳級は一、寸六分、五十五歳乃至七十四歳間は一、寸七、八分を示し、逐次高齢に達するに従つて其の較差大を呈し八十歳以上級には二寸の著差を認むるに至つた。其の詳細を表示するときは、次表の通りである。

□體性別胸圍比較(單位・分)

年 齡	男				女				男女の差
	胸圍	前年に比し減	指 數	胸圍	前年に比し減	指 數	胸圍		
二五—二九 歲	二七	(+)	100	二六	(+)	100	一		
三〇—三四 歲	二七	(+)	100	二六	(+)	100	一		
三五—三九 歲	二七	(+)	100	二六	(+)	100	一		
四〇—四四 歲	二七	(+)	100	二六	(+)	100	一		

年 齡	男			女			男女の差
	胸 圍	前年に比し減	指 數	胸 圍	前年に比し減	指 數	
四五—四九歲	三三			三三			
五〇—五四歲	三三			三三			
五五—五九歲	三三			三三			
六〇—六四歲	三三	(+)		三三			
六五—六九歲	三三			三三			
七〇—七四歲	三三			三三			
七五—七九歲	三三			三三			
八〇—八四歲	三三			三三			
八五—八九歲	三三			三三			
九〇—九四歲	三三			三三			
九五—	三三			三三			

備考 「前年に比し減欄の(+)は前年に比し増、「男女の差欄の(+)は女の優れたるを示す。

地方別觀察

二十五歳以上の胸圍を地方別に考察すると、前項體重、身長の場合と同じく北中部優秀にて南部劣小なり。就中新竹州に於ける胸圍は男女何れも全島平均位以上を示し甚だ佳良なり、次で臺北、臺中の順位を爲す、臺北州の男は平均以上七年齢級、同位を示すもの二年齢級(但し八十四歳の五歳階級別十二階段中の成績、以下同じ)あり、又臺中州の男は平均と同位にあるもの一階級、平均を突破するもの四階級ありて他は平均以下である。女に在りては臺中州は新竹州と同じく各

歳級總て平均位にある好成绩を擧げてゐる。臺南、高雄の兩州は各年齢級一として平均位に達するものなき狭胸を呈してゐる。

今、二十五歳乃至八十四歳の六十年を各五歳宛に合括したる十二年齡階級別全島平均胸圍を各州別平均胸圍と比較すると、次の如くである。

全島平均に比し各州の優劣

州	男			女		
	平均以上	平均と同位	平均以下	平均以上	平均と同位	平均以下
臺北州	七	二	三	八	一	三
新竹州	一二	一	一	一二	一	一
臺中州	四	一	七	一二	一	一
臺南州	一	一	二	一	一	二
高雄州	一	一	二	一	一	二

更に地方別に依る差異を敘述して見ると、

1 臺北州 本州は殆ど平均位に近き優秀であつて、各歳級平均位に達せざるもの、又は平均位上とするも一分乃至三分の少差に過ぎず。就中女は二十五歳乃至三十九歳間は全島平均以下にあるも、四十歳乃至四十四歳級は全島平均と同位を示し、四十五歳以上は各年齢級總て平均位を超過してゐる。而して女は優良なる新竹、臺中兩州と、不良なる臺南、高雄兩州の中間に位してゐる。

2 新竹州 本州は男女俱に各歳級を通し、全島平均より著しく廣胸にして、之を全島平均に比するときは男に在りては二十五歳乃至四十四歳及び八十歳乃至八十四歳級は孰れも一寸以上廣く、